

竹の子川柳会

ちらちらと空から雪が降ってくる

中二 清原 沙耶

ちらちらと空から雪が顔見せる

高二 渋谷 裕紀

葉っぱたち鬼ごっこするちらちらと

小四 梶野 海斗

ちらちらと聞こえる声に耳すます

高一 榎 美咲

ちらちらと星の光が見えかくれ

小三 小原 麗羽

おもちつきべったんべったん音が鳴る

小三 山田 清也

もちのように長くねばれる一年に

高二 榎 美琴

年越しておなかを見るとお餅腹

高二 山口はると

買うよりはついたおもちがおいしいな

中一 菅元 聖羅

いろいろなしゅるいのもちのバイキング

小四 石崎 海士

ものえらぶいい物あつてまよっちゃう

小五 梶野 峰士

ノーベル賞選ばれはしやく夢を見た

高三 山口 悠李

将来を選んで進むいい道へ

高三 藤森 柚樹

プレゼント気持ちをこめて選んでる

中一 吉良ちひろ

あの人も見ているかしら冬の月

水野すみこ

目ぼこりの目をウインクと間違われ

渡辺 光男

じつくりと話せば誤解だと分かり

栗木 一郎

思いきり誤解恐れぬ主義主張

山本 雅之

切り札のノートは妻の手の内に

若宮 賢敬

千鳥足影もくねくね月明かり

渡辺 照子

乗り越えたくねくね道を皺が知る

熊本 忠真

暖冬はどこへいったか雪景色

松本たつこ

背伸びした無理を鏡に笑われる

米子 達雄

好きな子にノートを借りた遠い春

川添 忠昭

完走に道後のお湯のおもてなし

宇津本アヤ子

春そこにもう南から花便り

宮川 柳酔

ストーブの焼芋胸も暖める

男武志津江

ひよし川柳会

Andrew's Story 【No.18】 「Spring Cleaning」

いよいよ春がやってきましたね。花が咲きだし、気温が温かくなってくると、世界そのものがよみがえってくるような気がします。

春と言えば、アメリカでの大掃除を思い出します。日本では、12月に大掃除をするのが一般的ですが、アメリカやヨーロッパの一部の国では「Spring Cleaning(春の大掃除)」を行います。

なぜ春に掃除をするかという、春には新しい命の誕生や新生活の始まりなど「新しい」ことが多くあるため、「自分自身の身の回りも新しくしよう」と考えるからです。これは「自分自身がよみがえる」という意識の表れだと思っています。

この「よみがえる」という考え

方はキリスト教に由来しています。キリスト教に関する祝日と言えば、キリストの誕生日、つまりクリスマスが一般的ですが、「イースター」と呼ばれる祝日が、実はキリスト教にとって一番大切な祝日なのです。この「イースター」とは、キリストが復活した、つまりよみがえったことを祝う日で、教会に行ったり、祈ったりしてお祝いします。

しかし面白いことに、現在、世界的に有名な「イースター・バニー」は、キリスト教ではなく異なる宗教に起源があるのです。それがいつの間にかキリスト教の伝統の中に加わり、代表的な伝統へと変化してきました。

日本の祝日とは、ずいぶん印象が違いますね。



鬼北町外国語指導助手
通称：アンディ
アメリカ合衆国アリゾナ州出身
※毎週水曜日、英会話教室を開講しています。